

# らい 来ぶらり 28

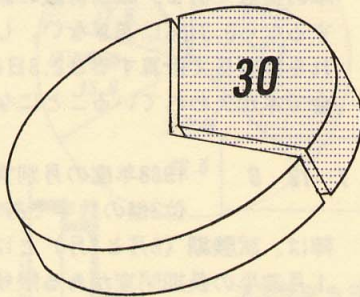
数字で見る

## 開架図書室

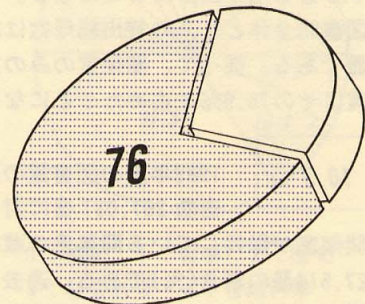
あるいは、略して開架室という名称で呼ばれている。利用者にはこの名前で知られ、親しまれているかもしれない。入口を入ってすぐ右手にこの一角がある。広さはほぼ正方形で15m×15m程度。普通の3LDKマンションの3倍弱。大きさが想像できよう。時には、暗鬱で陰気な横顔を見せる館でもある。この狭く小さい一室が、実は大学図書館において重要な役割を担っているのである。それを、今回は統計によって検証してみたいと思う。

### パワー度チェック

入館者数



貸出冊数



大学図書館全体に占める開架室の占有度(%)

### 10人に3人は

強い吸引力

入館者の10人に3人は、その目的・行動がなんであれ開架室へ立ち寄り

高い貸出率

入室者の10人に3人は、図書を借り出してゆく実質的な利用者達である

## そのパワーを測定する

236

開室日の日数である。この数字は1年間の約65%に相当する。なお、年間の開館日数は平均263日である。〔以下、特に断りがない限り統計は過去4年間（1985～1988）の年平均を使用している〕

6.4

図書館の面積（3,271㎡）に占める開架室（207㎡）の割合（%）である。事務室と書庫を除いた数字（1,186㎡）からみても17.5%である。

72,709

年平均入室者数である。学生1人当たり年間約9.7回開架室を利用したことになる。（1988年度の学生総数7,463人を基準に算定）。

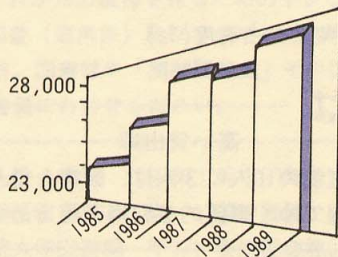
1日平均では308人。また年平均入館者数は、239,140人である。従って、入館者の30.4%は開架室に吸い寄せられたことになる。

21,405

年平均貸出冊数である。これは学生1人当たり年間約2.9冊を借り出したことになる。一方、図書館全体としての貸出総冊数は28,194冊である。従って、開架室のみの貸出で実にその75.9%を占めたことになる。

10.3

1988年度の図書館の蔵書総冊数267,037冊に対して、開架室が保持している同年度の蔵書冊数27,514冊の割合（%）である。過去5年間開架室の蔵書冊数は、増加傾向にあった。



## 開架室してほしい6戒

- ①返却日を守る
- ②入室時は、荷物をロッカーへ入れる
- ③閲覧図書は、必ず元の場所に戻す
- ④館内での喫煙、飲食は厳に謹む
- ⑤掲示等を必ず見る
- ⑥資料探しは2階の目録も調べる

## その新陳代謝を測定する

8,523 : 5,274  
2,131 : 1,319

新旧図書の入れ換えることである。上段左の数字は過去4年間の累積増加冊数を、右はその払出冊数を示す。下段は同様に、その年平均である。増加が払出を上回っているが、両者が均衡した時点で、開架室の成長も停止するであろうと思われる。

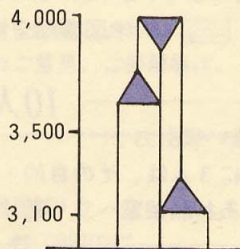
## マジック数字を測定する

102

1988年度の開架室における所在不明図書、つまり紛失本の冊数である。蔵書冊数の割合で比較するなら0.37%に過ぎない。しかし、これを開架日で計算すると2.3日に1冊の割合で本が失われていることになる。

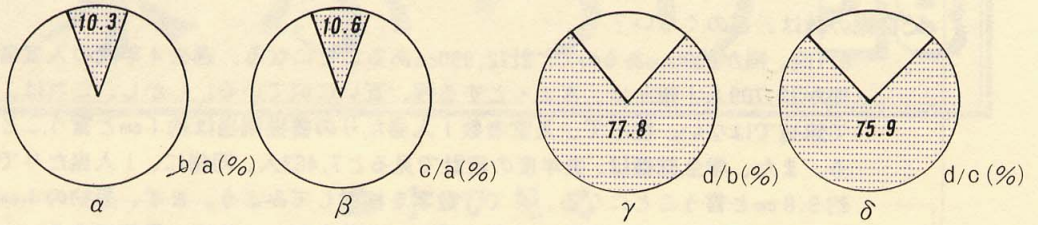
1 12 6

1988年度の月別貸出冊数上位3傑の数字である。この布陣は、試験期（6月と1月）と12月後半～1月前半の長期閉室がある限り、不動の順位であろう。開架室と試験期の関係は強力である。



## 失われた相関関係を求めて

### その1



a : 蔵書総冊数(267,037)

c : 貸出総冊数(28,194)

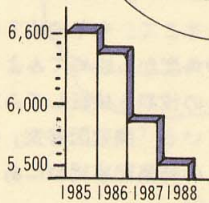
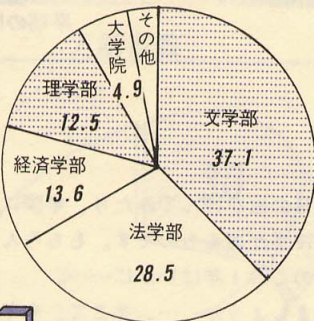
b : 開架室冊数(27,514)

d : 開架室貸出冊数(21,405)

蔵書総冊数に対する開架室の冊数の割合を、8.4%増加させて18.7%にしてみよう。現在の27,514冊から、ほぼ50,000冊になる。結果は、どうなるだろうか。この投資は、図書館利用度の評価ポイントに貢献するであろうか。上記の関係より“Oui”である。つまり、開架室の拡張は、採算に十分見合った事業なのである。しかし、開架室は開架式である。これは、本質的にスペース・ウォーズの問題である。容量の問題である。50,000冊？

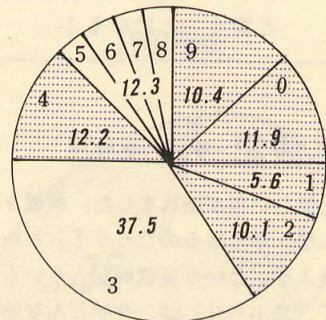
### その2

学部別利用者内訳(%)



法学部学生貸出  
利用者の推移(人)

門別(分類)蔵書構成比(%)



0 : 総記 1 : 哲学 2 : 歴史  
3 : 社会科学 4 : 自然科学  
5 : 技術 6 : 産業 7 : 芸術  
8 : 言語 9 : 文学

門別では、0-2,9門の合計が38%、3門単独で37.5%、4門が12.2%、利用者別では、文学部37.1%、法学部・経済学部合同で42.1%、理学部が12.5%。偶然か？-Non！明らかに、学部別利用者の比率と分類別蔵書構成比には照応関係がある。一方、統計上過去4年間法学部学生の利用者は減少傾向を示している。これらの問題が、開架室の適正規模と蔵書構成比、一部パトロン達の遊離現象等を真剣に問いかけてくるのである。誰に？

## 開架室あれこれ

### その一部を公開する

♡書棚の数は、どのくらい？

811段。幅が約90cmあるので、計72,990cmあることになる。過去4年間の入室者数平均が72,709人！確かに、ぎよっとする程、互いに似ている。しかし、これは、決して誤植ではない。従って、入室者数1人当たりの書棚割当は約1cmとすることになる。また、学生総数は、去年度の統計で見ると7,463人。同様に、1人当たりでは、約9.8cmとすることになる。さて、数字を検討してみよう。まず、最初の1cmから。これには、困った。1円玉の半分の幅としか言えない。次に、最後の9.8cm—ま、『現代用語の基礎知識』1冊分といったところだろうか。

♡随分、下らない計算をしますね。それでは、ロッカーの数は？

51個。これを、少ないと見るか、多いと見るか。こんな風に、計算してみよう。まず、何度もでてくる数字だが、ここ4年間の入室者数平均が72,709人。平均開室日が、236日。従って、1日当たりの入室者数は308人になる。次に、開室と閉室の時間を調べてみよう。普通は、朝8時50分に開室し、午後6時30分に閉室する。実質9時間40分である。これから、1時間当たりの入室者数が割り出せる。32人である。51対32。1人当たりロッカー数は、1時間当たり1.6個とすることになる！



早朝の開架図書室

## 編集後記

また新しい年が訪れました。御籤<sup>おみくじ</sup>を引いてみたり、初日の出を拝んでみたり、年頭にはいつも、「今年はどうなるのだろうか？」という不安にも近い期待感があるものです。もちろん、「こんな1年にしてみよう」という意欲的な人もいるでしょう。あなたのこの1年はいかに……。

さて、『来ぶらり』は、今年どんな誌面作りをしていきましょうか……。そこで、今年初めての『来ぶらり』は、今までに何回か記事になっている「開架図書室」を、全く別の角度から眺めてみようということで、統計に基づいた数字遊びとも思えるような方法で、「開架図書室」の役割を検証してみました。何か面白いことがわかったでしょうか？利用者の皆さんに最も親しまれている「開架図書室」の再発見と、これからの進路を探るための小さなきっかけになればと思います。この特集記事掲載にあたっては、入村司書（運用係）及びアルバイトの阿久根氏に協力をお願いしました。

なお、図書館や「開架図書室」そのほかについてのご意見、ご要望等は、2階目録室の掲示板横にある投書箱にお寄せください。

来ぶらり No.28 1990年1月1日発行

発行責任者：高本 進 編集委員：鈴木宗一 工藤晶子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221